

# 履修証明プログラム 学校福祉 2026 募集要項

## ■講義概要

1) 教育目標および講義を通じて得られるもの

【履修証明プログラム 学校福祉 2026 シラバス】

科目名	履修証明プログラム(学校福祉)
担当教員	鈴木庸裕 (日本福祉大学 教育・心理学部 教授)
テーマ	学校福祉にかかわる理論と方法 「子どもの生きづらさにアプローチする多職種連携をどう進めるか」
科目の ねらい	<p>〈キーワード〉</p> <p>学校福祉、多職種連携、子どもの権利、子どもの生きづらさ</p> <p>〈内容の要約〉</p> <p>貧困、虐待、不登校、いじめ、暴力、発達障害をはじめとする子どもたちの生きづらさに、教育職、心理職、福祉職が協働してアプローチするために必要な基礎的な知識とスキルを習得する。具体的には、学校福祉の思想、学校改革の現在、子どもを支える法と制度、学校・医療・心理臨床の連携、子どもとともに生きる人びと、多職種連携をどう進めるか、学校福祉援助をどう進めるか等にかかわる理論を学び、子ども支援の方法、実践記録の書き方及び分析方法等で構成する</p> <p>〈学習目標〉</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校福祉にかかわる基礎的な理論を習得することができる</li> <li>2. 教育・心理・福祉の連携の必要性や連携の在り方について理解することができる</li> <li>3. 子どもたちの生活を支える法・制度・諸機関・専門職とそのネットワーキングについて説明できる</li> <li>4. 子どもたちがかかえる生きづらさに対する教育・心理・福祉それぞれのアプローチ方法について理解するとともに、教育職・心理職・福祉職が協働的にアプローチするための実践的なスキルを身につけることができる</li> </ol>
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>①学校福祉というコンセプト (5.5 時間) *1~3 講</li> <li>②学校改革の現在と教育観・学校観・子ども観の転換 (8 時間) *4~7 講</li> <li>③子どもの生活を支える法と制度 (7 時間) *8~11 講</li> <li>④発達障害をめぐる学校と医療と心理臨床の連携 (5 時間) *12~14 講</li> <li>⑤子どもとともに生きる専門職のしごと (5 時間) *15~17 講</li> <li>⑥学校福祉のための多職種連携 (5.5 時間) *18~20 講</li> <li>⑦学校福祉のための相談援助方法 (6 時間) [ワークショップ・グループワーク6 時間]*21~23 講</li> <li>⑧教育実践記録を書く・読む・分析する (6 時間) [ワークショップ・グループワーク6 時間]*24~26 講</li> <li>⑨ 発達の理解と支援の方法 (4 時間) [ワークショップ・グループワーク4 時間]*27・28 講</li> </ol>

	⑩ 子どもの権利条約の意義と課題（2時間）＊29講 ⑪ 実践研究報告（4時間）[ワークショップ・グループワーク4時間]＊30・31講 ⑫ まとめ、学校福祉専門職のしごと（2時間）[ワークショップ・グループワーク2時間]＊32講 ⑬ 修了試験 ※①～⑥：オンデマンド配信、⑦～⑫：会場集合型による実践演習
<b>時間数</b>	講義 36.0 時間、演習 24.0 時間、合計 60.0 時間（※修了試験を含まず）
<b>受講にあたっての注意</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問や意見を積極的に述べて授業に積極的に参加すること</li> <li>・多職種連携を理解するため他職種のしごとへのリスペクトを忘れないこと</li> <li>・参考文献を読み、授業内容を深く理解するよう努めること</li> </ul>
<b>テキスト</b>	指定なし
<b>参考文献</b>	授業内で別途指示する
<b>成績評価基準</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全講座を受講し、実践研究報告会で報告すること</li> <li>・修了試験（学校福祉にかかわる論述）を受験し、合格すること</li> <li>・実践研究報告会での報告と修了試験を合わせて合否を判定する</li> </ul> <b>【評価区分】</b> <u>S:90 点以上、A：80～89 点、B：70～79 点、C：60～69 点、D：60 点未満とし、C 判定以上を合格とする</u>
<b>その他</b>	日本福祉大学の履修証明書（学校福祉）を発行する また全プログラム修了者には FUKUSHI ACADEMY 認定資格「学校福祉士」を付与する。

## 2) 受講対象者

学校の教員（養護教諭、司書教諭を含む）、指導主事、教職経験者、学校支援関係者、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、教育相談、放課後児童支援、指導員、特別支援教育などの専門職の方、社会福祉協議会、地域包括支援センター、児童福祉施設、行政などの職員の方、本プログラムに興味がある全ての方

※すでに学校等で教師、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等で働いている人にとっては相互に他職の専門性を理解し連携する手がかりを得るとともに、学校と関わっている人たちには、教育・心理・福祉にかかわる基礎的な理論と実践的なスキルを得る機会とする

## 3) 募集人員：80名（最少開講人数：10名）

## 4) 受講料：60,000円（税込）

## 5) 開講期間

2026年6月1日（月）～9月12日（土）

※詳細は別途「講座スケジュール」参照

## 6) 開講形式

- ・オンデマンド配信：講義視聴
- ・会場集合型：実践演習 ※会場は「JR・地下鉄「鶴舞駅（名古屋市）付近（日本福祉大学名古屋キャンパス or 日本福祉大学中央福祉専門学校）」を予定

## 7) 開講にあつての留意事項

### 【オンデマンド】講義

- ・期限内にすべての講義コンテンツを視聴し、システム内で課題レポートのご提出をお願いいたします
- ・受講状況については、システム上で事務局が管理しております。期限終了時に未視聴のものがあつた場合は、履修証明書の発行が不可となりますのでご注意ください

※PC またはタブレットでの受講をおすすめします(受講前に推奨環境をご確認ください)

### 【会場集合型】演習

- ・対面での開催時の会場では、各感染症予防対策として、受講生ご自身の体調チェック（検温含む）、消毒等の衛生対策、換気の徹底等を行う予定です
- ・なお、天災や感染症等の影響により会場集合型での開催を予定している演習について、急遽形式変更する可能性（インターネットの活用等）もありますことを、あらかじめご了承ください

## 8) 履修管理について

- ・本プログラムの修了要件は、シラバスの「成績評価基準」をご確認ください
- ・各講義・演習の遅刻・早退は30分未満とし、それを超える場合は1講分(2時間)の欠席と見なします  
※Zoom開催の場合、機器トラブル等によりご本人の受講確認ができない状態が30分以上を超えた場合も上記同様欠席とみなされますのでご注意ください
- ・演習・修了試験の欠席は原則、認められません

### <重要>

#### ※万が一、演習を欠席され、履修証明書の発行を希望する場合について

→翌年度、同講座が開講された場合、欠席の講のみの受講いただくことで履修証明の要件を満たすことが可能です（本措置は、翌年度に限る対応となります）

\* やむを得ない事情により翌年度にまたがる履修を希望の場合は、「一部履修証明書」を発行いたしますので、事務局までお問い合わせください。翌年度履修の際に、こちらの証明書が必要となります

\* 翌年度の履修に係る受講については、当年度受講料とは別途、補講料として2,750円（税込）/1講が必要となりますので、予めご了承ください

# ■受講申込みについて

## 1) 受講資格

主に社会人の方を対象とし、大学入学資格を有する方

※高等学校卒業またはこれと同等（高等学校卒業程度認定試験合格）

## 2) 申込方法

下記の書類一式をご記入の上、角型第2号封筒に入れ、郵送してください

郵送の際は封筒の表面に「書類在中」と朱記してください。また、封筒の裏面には申込者の住所・氏名を記載してください

## 3) 提出書類

① 受講申込書（所定の様式） 1通 （※1）

② 志望動機書（所定の様式） 1通 （※2）

③ 最終出身学校の卒業証明書または卒業見込証明書の原本 1通 （※3）

※1,2 所定の書式を本講座 HP よりダウンロードしてください

※3 こちらの書類は取寄せに時間がかかりますので、早めの準備をおすすめいたします  
証明書が旧姓で記載されている場合は、①の申込書の旧姓名欄に必ず記載ください

## 【一部履修証明書をお持ちの方へ】

・2025年度に一部履修証明書を発行された方は、2026年度において、証明書に記載の科目が受講免除となります。対象の方は、上記の提出書類の他に「一部履修証明書（コピー）」をご提出ください

・受講料は欠席された講数により異なります（補講料：2,750円/講）

詳細は、対象者にお送りします案内メールをご確認ください

## 4) 書類送付先

〒460-0012 名古屋市中区千代田 5-22-35

日本福祉大学 FUKUSHI ACADEMY「学校福祉 2026 事務局」宛

## 5) 書類受付期間

2026年4月13日(月)～2026年5月10日(日) **【必着】**

※上記期間を過ぎたものは受理せず、郵送された申込書などは返送いたしません

※申込状況によっては受付期間を延長する場合がございます。その際はホームページにてお知らせします。

## 6) 選考料：無料

## 7) 選考方法

申請書類に基づき選考します

（応募者多数の場合、本プログラムの受講が業務上必要な方を優先して選考します）

8) 受講者発表日 (予定)

2026年5月18日(月)に可否に関わらず通知します

# ■ 講義スケジュール

[オンデマンド講義]

日程	講	タイトル	学習内容	担当
2026年 6月1日(月) ↓ 7月26日(日)	1	いままぜ学校福祉なのか	学校の持つ福祉的機能の内発的発展	鈴木 庸裕
	2	教育と福祉をつなぐ(1)	福祉に内在する教育的機能	高橋 正教
	3	教育と福祉をつなぐ(2)	社会的養育の今日的課題	遠藤 由美
	4	21世紀教育改革の諸相と真相	ゼロトレ、P D C A、学校スタンダードを問う	藤井 啓之
	5	教育観・子ども観の転換と学校制度	生活主体としての子ども、学校改革の新しい動向	山本 敏郎
	6	子どもの声を聴くということ	子どもの声が聞こえてくるように聴く	鎌倉 博
	7	子どもの育ちを支える文化	命輝く瞬間を仲間とともに	南 寿樹
	8	生きづらさの窓を開く(2)	非行をする少年の現状、子どもの人権擁護	湯原 悦子/渋谷 幸靖
	9	非行・問題行動の克服支援	貧困・虐待 - 家庭から排除された子どもたち -	木村 隆夫
	10	子どもと地域福祉	福祉教育が支える主体形成	小林 洋司
	11	子どもの権利と学校	子どもの権利が息づく学校にする	間宮 静香
	12	命を守る学校と子ども	医療的ケア児と共生する学校づくり	調整中
	13	医療から見える学校と子ども	発達障害を抱えた子どもにとっての発達環境	牧 真吉
	14	相談室から見える学校と子ども	発達障害を抱えた子どもと学校適応	堀 美和子
	15	子どもとともに生きる-保育専門職	多職種との連携を活かして	平松 知子
	16	子どもとともに生きる-小学校教諭	多職種との連携を活かして	板垣 賢二
	17	子どもとともに生きる-特別支援学校教諭	多職種との連携を活かして	大宮 とも子
	18	子ども・家族支援と多職種連携	心理職固有のアセスメント	瀬地山 葉矢
	19	個別支援と多職種連携	福祉職固有のアセスメント	杉原 里子
	20	多職種連携の現状と課題	チーム医療からの提案	藤井 博之

[実践演習：会場集合型(対面)]

日程	講	時間	タイトル	学習内容	担当
2026年 8月1日(土)	21	10:00-12:00	学校福祉援助演習(1)	個人援助技法の基礎	野尻 紀恵
	22	13:00-15:00	学校福祉援助演習(2)	Eコマップ、生育歴が気づきをつなぐ	沖田 昌紀
	23	15:15-17:15	学校福祉援助演習(3)	学校アセスメント・地域アセスメントの進め方	野尻 紀恵
		17:30	終了		
2026年 8月29日(土)	24	10:00-12:00	教育実践演習(1)	実践記録を読む・書く・分析する(1)	藤井 啓之/鎌倉 博/上森さくら
	25	13:00-15:00	教育実践演習(2)	実践記録を読む・書く・分析する(2)	
	26	15:15-17:15	教育実践演習(3)	実践記録を読む・書く・分析する(3)	
		17:30	終了		
2026年 8月30日(日)	27	10:00-12:00	学校心理演習(1)	乳幼児期からの心理発達の理解を活かした支援	瀬地山 葉矢
	28	13:00-15:00	学校心理演習(2)	心理職と福祉職の「かさなり」を考える	鈴木 庸裕/土井 裕貴/服部 浩之
	29	15:15-17:15	子どもの権利条約の意義と課題	【特別講演】競争的教育環境と専門職	増山 均
		17:30	終了		
2026年 9月12日(土)	30	10:00-12:00	学校福祉演習(1)	実践研究報告会(1)	鈴木 庸裕
	31	13:00-15:00	学校福祉演習(2)	実践研究報告会(2)	
	32	15:15-17:15	総括討論	【シンポジウム】学校福祉のための多職種協働	
		17:30	終了		

# ■講師紹介

## ◇担当教員



### 鈴木 庸裕 (すずき のぶひろ)

日本福祉大学 教育・心理学部 教授

#### 【研究分野】

学校福祉論

#### 【主な研究内容】

学校教育をめぐる多職種連携学習の試行、  
いじめ・自殺の防止対策について  
学校ソーシャルワークがめざす学校づくり など



### 野尻 紀恵 (のじり きえ)

日本福祉大学 社会福祉学部 教授

#### 【研究分野】

社会福祉学, 教育福祉, 福祉教育, スクールソーシャルワーク

#### 【主な研究内容】

教育福祉の方法としてのスクールソーシャルワーク、  
子どもの貧困を支援するスクールソーシャルワークの介入プログラム  
構築とその評価 など

### 瀬地山 葉矢 (せちやま はや)

日本福祉大学 教育・心理学部 准教授

#### 【研究分野】

臨床心理学

#### 【主な研究内容】

親と乳幼児の関係性の発達、保育における心理臨床など



◇講師一覧（講師都合等で変更になる場合があります）

五十音順

講師名	所属など
板垣 賢二（いたがき けんじ）	日本福祉大学 教育・心理学部 教授
上森 さくら（うえもり さくら）	金沢大学 人間社会研究域学校教育係 准教授
遠藤 由美（えんどう ゆみ）	日本福祉大学 教育・心理学部 教授
大宮 とも子（おおみや ともこ）	日本福祉大学 スポーツ科学部 准教授
沖田 昌紀（おきた まさき）	スクールソーシャルワーカー
鎌倉 博（かまくら ひろし）	名古屋芸術大学 教育学部 教授
木村 隆夫（きむら たかお）	元 日本福祉大学 教授
小林 洋司（こばやし ようじ）	日本福祉大学 社会福祉学部 准教授
杉原 里子（すぎはら さとこ）	スクールソーシャルワーカー
鈴木 庸裕（すずき のぶひろ）	日本福祉大学 教育・心理学部 教授
瀬地山 葉矢（せちやま はや）	日本福祉大学 教育・心理学部 准教授
高橋 正教（たかはし まさのり）	社会教育推進全国協議会会員／元 至学館大学教授
土井 裕貴（どい ゆき）	大阪経済大学 人間科学部 講師
野尻 紀恵（のじり きえ）	日本福祉大学 社会福祉学部 教授
服部 浩之（はっとり ひろゆき）	愛知県社会福祉士会 社会福祉士
平松 知子（ひらまつ ともこ）	元 けやきの木保育園園長
藤井 啓之（ふじい ひろゆき）	日本福祉大学 教育・心理部 教授
藤井 博之（ふじい ひろゆき）	東洋大学 福祉社会開発研究センター 客員研究員
堀 美和子（ほり みわこ）	日本福祉大学 教育・心理学部 准教授
牧 真吉（まき しんきち）	元 日本福祉大学 社会福祉学部 教授
増山 均（ましやま ひとし）	早稲田大学 名誉教授
間宮 静香（まみや しずか）	緑オリーブ法律事務所 弁護士
南 寿樹（みなみ としき）	特定非営利活動法人 くるみの会 理事
山本 敏郎（やまもと としろう）	元 日本福祉大学 教育・心理学部 教授
湯原 悦子（ゆはら えつこ）	日本福祉大学 社会福祉学部 教授

※2026年1月時点での所属を記載

【お問い合わせ先】

日本福祉大学 FUKUSHI ACADEMY 学校福祉 2026 事務局

電話：052-242-3069（平日：10時～17時）／FAX：052-242-3020

Eメール：recurrent@ml.n-fukushi.ac.jp